
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2016年 No.2 (2016.6)

- ・ 工藤(3)が学連春季競技会で男子110mH14” 96の部記録を樹立!!
 - ・ 第69回東北学生陸上競技対校選手権大会
 - …男子棒高跳 高橋拓実(4)、男子走高跳 田中祥平(3)の2名が
全日本インカレ出場権を獲得!!
 - …女子10000mWで白井(2)が57’ 27” 24、
女子4×100mRで中村(2)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)が50” 23の部記録を樹立!!
-

・ 東北学連春季競技会	2～3 ページ
・ 宮城県春季陸上競技大会	3 ページ
・ 平成28年度第一回部員総会	3 ページ
・ 第69回東北学生陸上競技対抗選手権大会	4～15 ページ
・ 自己記録更新者一覧	16 ページ
・ 今後の予定	16 ページ
・ 編集後記	16 ページ

緑樹の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より皆様の並々ならぬお力添えをありがとうございます、部員一同感謝の思いを抱きながら日々練習に励んでおります。

今号では、第 69 回東北学生陸上競技対抗選手権大会の結果を中心にお伝えします。

◎東北学連春季競技会(4/9～4/10)

…ひとめぼれスタジアム(利府)

シーズン初戦のこの競技会には多くの選手が出場しました。工藤(3)の男子 110mH 部記録更新をはじめ、各選手健闘を果たしました。出場選手が多かった種目を中心に結果の一部をお伝えします。

◆男子 100m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1組(+0.9)	宮崎幸辰(4)	7着	11"15
4組(+2.2)	藤井佳祐(3)	5着	11"26
6組(-0.2)	竹原大(M1)	5着	11"58
7組(+0.0)	大衡竜太(3)	6着	11"80
8組(+1.3)	畑岡進(6)	3着	11"48
9組(+0.3)	津嶋優希(3)	5着	11"92
10組(-1.8)	白鳥海知(2)	1着	11"66
11組(-2.2)	山下一也(2)	1着	11"41
13組(-1.3)	堀越涼(2)	4着	11"86
14組(-2.4)	渡邊裕一郎(3)	8着	12"43

14組	森野太介(3)	1着	54"12
15組	清野雄太(2)	1着	52"81

◆男子 800m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	清野雄太(2)	4着	1'59"96
〃	佐藤宏夢(2)	6着	2'01"17
2組	松田将大(2)	5着	2'00"49
〃	川口航汰(2)	6着	2'00"62
3組	渡邊俊(3)	4着	2'02"29
	荒田啓輔(2)	4着	2'02"81
7組	千葉智史(3)	3着	2'08"95

◆男子 200m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組(-0.8)	宮崎幸辰(4)	6着	22"60
3組(-0.7)	竹原大(M1)	5着	23"93
〃	本間大輔(M2)	6着	24"15
〃	大衡竜太(3)	8着	24"50
6組(+0.1)	森野太介(3)	5着	24"00
7組(-0.2)	白鳥海知(2)	1着	23"47
12着(-0.2)	堀越涼(2)	2着	24"11
14組(-0.8)	岩波発彦(2)	3着	24"00
〃	南波淳輝(3)	4着	24"72

◆男子 1500m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	松田将大(2)	13着	4'13"88
2組	荒田啓輔(2)	4着	4'17"84
	高橋慧伍(M1)	17着	4'47"13
3組	渡邊俊(3)	15着	4'26"66
4組	安西聡(4)	10着	4'30"04
5組	森渉(3)	11着	4'34"95

◆男子 5000m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	草島立太(2)	5着	16'55"83
2組	西井大樹(M2)	10着	17'37"88
3組	須永亘(2)	5着	16'36"84
4組	酒井啓一郎(3)	1着	15'46"39
〃	本田雄生(4)	12着	16'12"54
〃	熊谷駿(4)	19着	16'38"17

◆男子 400m

組	氏名(学年)	順位	記録
2組	竹原大(M1)	9着	52"38
2組	畑岡進(6)	4着	51"22
5組	岩波発彦(2)	8着	53"58

5組	笠間淳平(2)	4着	15'13"36	熊谷駿(4)	14着	34'57"11
〃	高橋佳希(M1)	14着	15'39"32	岡田圭太(2)	16着	35'14"49
〃	南雲信之介(5)	17着	16'11"14	高橋仙一(4)	17着	35'18"10
〃	早坂謙児(4)	19着	16'14"38	上條広裕希(2)	18着	35'25"07
				藤原啓(3)	19着	36'37"54
				吾妻祐介(3)	21着	38'41"68

◆男子 10000m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	本間涼介(4)	2着	31'40"02
	笠間淳平(2)	3着	31'46"81
	高橋佳希(M1)	4着	32'23"50
	酒井啓一郎(3)	5着	32'36"78
	酒井洋輔(2)	9着	33'32"28
	関俊樹(3)	12着	34'43"60
	早坂謙児(4)	13着	34'49"72

◆男子 110mH

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	工藤翼(3)	2着	14"96 部記録!
〃	本間大輔(M2)	5着	15"32
2組	楠木啓介(3)	4着	16"36
〃	勝井友樹(2)	6着	16"59

◎宮城県春季陸上競技大会(4/23～4/24)

…ひとめぼれスタジアム(利府)

この大会は宮城県陸協に登録している選手しか出場できない大会ということで出場者は限られていましたが、各選手健闘が見られました。東北大学からの入賞者を紹介いたします。

◆男子 800m

清野雄太(2)	5位	2'01"79
松田将大(2)	6位	2'02"59

◎平成 28 年度第一回部員総会(5/6)

…片平さくらホール

5月6日、片平さくらホールで平成28年度第一回部員総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、吉田監督から挨拶がありました。

平成27年度活動予定の報告などの後、新入部員の紹介が行われました。最後に、出席して下さった先輩方より一言ずついただきました。

★出席して下さった先輩方(敬称略、大学院生を除く)★

佐藤健二、佐藤源之、眞山隆徳、彦坂幸毅、久保正樹、吉田真人、相澤直人

◎第 69 回東北学生陸上競技対抗選手権大会(5/13～5/15)

…ひとめぼれスタジアム(利府)

対校結果は、男子総合 3 位、トラック 4 位、フィールド 2 位、女子総合 9 位、トラック 9 位、フィールド 6 位でした。全体としての目標は達成できなかったものの、全日本インカレ出場者が 2 名輩出された他、上位入賞者も多数見られました。各選手の結果とその様子を紹介します。

男子 100m 予選

1 組 1 着 宮崎幸辰(4) 11"10(-1.3)

スタートはやや出遅れたが、中間疾走は持ち直し、一位通過した。しかし、未だに走りのリズムが噛み合っていない。

2 組 4 着 藤井佳祐(3) 11"24(-1.1)

予選スタートが大幅に遅れ周りに置いて行かれる。しかし後半しっかり加速することが出来なんとか 4 着で抜ける事ができた。加速はすることが出来たが前傾が出来てなかったので無理矢理加速していたのでしっかりそこを改善したい。

3 組 5 着 白鳥海知(2) 11"67(-1.2)

スタートと同時に身体が起き上がってしまい、十分に加速しきれていない印象であった。中間疾走に早い段階でなってしまった分後半に力みが生じてしまっていた。しかし、重心の位置は高く保てており、スタートから加速期までを改善すれば、大幅に記録が良くなるとも感じた。

男子 100m 準決勝

1 組 6 着 藤井佳祐(3) 11"36(-2.1)

準決勝は予選と比べるとスタートもうまくいき前傾も出来ていた。周りにも前半はついていけたが後半は疲れか見えておりしっかり走れていなかった。今回は 4 継も走っており体力の無さも原因かと思われる。これからはしっかり体力をつけ 3 本走れる体を作っていきたい。また、スタートが壊滅的なのでしっかり改善していきたい。

3 組 2 着 宮崎幸辰(4) 11"12(-3.1)

予選と同様にスタートから出遅れ、中間疾走でも遅れを取り戻すことができなかった。

た。2 位の選手のスピードが落ちたのを見逃さず、最後でかわし、決勝進出を決めた。

男子 100m 決勝

7 着 宮崎幸辰(4) 11"27(-1.3)

いいスタートを決めたが、緊張と疲労で身体が硬直したためか、今季の悪いところが全て出てしまい失速。7 位という結果に終わった。

女子 100m 予選

3 組 4 着 吉村梢(3) 13"11(0.0)

スタートの反応が悪く、上位 3 人に遅れをとってしまった。身体が早くに起き上がってしまったために後半追い上げることができずに、そのまま 4 位でゴール。決勝進出はならなかった。

男子 200m 予選

1 組 6 着 白鳥海知(2) 23"56(-1.8)

最後まで力強く走りきっている印象をうけた。レースの構成は良かったが、ホームストレートに入ってくる時に切り替えてスピードに乗ればさらに良いタイムが期待できると思う。最初の 100m でエネルギーロスなく加速できれば残り 100m で切り替えることにつながると思う。

3 組 4 着 阿部耕大(4) 23"12(-0.4)

スタートはやや遅れたように見えたが、そこから徐々に加速していき 100m を 4～5 番目で通過。残りの 100m はスピードを保ったまま安定感のある走りをし、5 番手以降を離して 4 番目でゴールし、準決勝に進出した。

5組1着 宮崎幸辰(4) 22"20(-1.5)

100mのタイムが伸びない状況から抜け出せず、前半から厳しいレース展開となった。しかし、難なく着順で準決勝を決めた。

男子 200m 準決勝

1組4着 宮崎幸辰(4) 22"55(-1.4)

それなりにいいスタートを切れたが、前半スピードを出したせいで後半は失速した。プラス進出できず、準決勝敗退となった。

2組4着 阿部耕大(4) 22"75(+0.3)

9レーンと外側からのスタートであったが、自分のペースで加速をし、100mを5番手付近で通過。その後、スピードを維持し、一人をかわし、4着でゴール。予選より走りタイムともによかったが、決勝進出はならなかった。

女子 200m 予選

1組3着 佐貫有紗(1) 27"13(-2.9)

スタートから内レーンの選手に追いつかれるが、コーナーを出てからじわじわと追い上げ3位でゴール。決勝進出を決めた。

2組7着 佐々木千肅(2) 27"76(-1.5)

スタートから少し周囲に遅れをとっていた、前半うまくスピードに乗ることができないまま、後半に突入した。なんとか粘って1人抜きゴールした。

2組8着 吉村梢(3) 27"92(-1.5)

スタートの反応は悪く無かったが、加速局面で力んでしまい、上手くスピードに乗れなかった。100mを過ぎた辺りからスタミナ不足で大きく減速してしまい、8位でゴール。

女子 200m 決勝

6着 佐貫有紗(1) 27"18(-0.7)

予選と同じくスタートで大きく出遅れる。ホームストレートに入った時点で周りに大きく離され、ゴールまで差が縮まらず、6着でゴール。

男子 400m 予選

1組5着 佐藤弘隆(4) 51"73

スタートから動きが小さく硬いままで、早々に内側の人に追い付かれさらに硬くなってしまった。200m~300mにかけて少し粘りを見せ追い上げるが、最後まで保たず、競り負けて5位でのゴールとなった。

2組4着 畑岡進(6) 52"17

最初の100mで、一つ外側の選手をとらえ、順調に前半から加速して行った。しかし、ラスト100mで身体が動かなくなり失速してしまった。身体のピークを合わせることができなかつたので、残念な結果となってしまった。

5組4着 岩波発彦(2) 53"38

前半は軽快なリズムで走っていたが先頭との差は広がっていき、280m付近からピッチが落ち始める。直線に入ったところで前の選手との差を詰めるが、ラスト50mが粘れず組4着でゴール。

女子 400m 予選

1組7着 李潔如(4) 1'09"52

前半はいつもよりやや速いペースで200mまで走っていたが、次第に疲れてペースを落とすことになってしまった。ラストは苦しい走りになった。組7着でフィニッシュ。

男子 800m 予選

1組6着 松田将大(2) 2'02"78

スタート直後から動きが硬め。早くも1位集団が6人となり、勝負はラストの着順争いに。350mで接触があったものの、冷静に対処。全体的に牽制気味で一周目を通過。ラスト200mで着順争いするもポケットされ思うように前に出られず辛くも6位でフィニッシュ。プラスで準決勝には進出できたものの、疲労の残るレースだった。

4組1着 川口航汰(2) 2'02"87

集団後方に位置取りをする。着順を取りにスパート勝負に持ち込むのが狙いか。ゆっくりめで1周目を通過。500mから集団の前方に出る。残り150mあたりから急激

に加速すると残り 50m 程で先頭に。そこからは流して、余裕のある状態で 1 位フィニッシュ。

5 組 2 着 清野雄太(2) 2'02"16

序盤飛び出て、先頭を引っ張る。一周目を 59 秒で通過。他の組よりもハイペースか。ラスト 200m で先頭を譲るも、最後までしっかり粘り着順は確保。2 位でフィニッシュ。

男子 800m 準決勝

1 組 2 着 清野雄太(2) 1'59"59

予選同様に序盤から先頭に出る。入りはやや飛ばし気味か。ハイペースで引っ張る。55 秒で一周目。後方は離れて既に先頭は二人に絞られたか。先頭のまま 600m を通過。ラストで体力尽きたか、二位に落ちるも後方の集団からは執念で逃げ切る。2 位でフィニッシュ。決勝へとコマを進めた。

2 組 4 着 松田将大(2) 2'00"96

全体的にやや牽制気味か。ゆっくりめでレースが進む。集団のまま一周目を通過。松田は集団半ばに位置取り。ラスト 300m から全体的にやや加速。ここで集団の前に着く。ラスト 150m からスパート争いになる。周りに逃げられるも、4 位は死守。しかしプラスでは拾われず、惜しくも決勝進出とはならなかった。

3 組 1 着 川口航汰(2) 1'57"89

最初にポケットされる。集団の中で走るのは窮屈そうではあったが落ち着いて集団後方でレースを進める。一周目は集団後方で通過。57 秒。500m 付近で二位になるとラスト 120m で再スパート。ラスト 50m で先頭に立つ。1 位でフィニッシュ。持ち前のスパート力が光るレースとなった。

男子 800m 決勝

2 着 川口航汰(2) 1'57"03

4 着 清野雄太(2) 1'58"75

他大の選手がハイペースで引っ張る形に。川口は先頭集団からやや離れ 5 位あたりで、

清野は 8 位で一周目を通過。先頭が落ちてきたところを川口が越していく。川口はラスト 200m 付近にて先頭 3 人で固まると、スパート勝負。惜しくも 2 位でフィニッシュ。一方清野は、じりじりと順位を上げ、4 位を確保。二人とも冷静な試合運びが出来ていた。12 点獲得。

女子 800m 予選

1 組 6 着 上條麻奈(1) 2'31"32

先頭二人が飛び出し、3 位集団を引っ張る形に。3 位で 1 周目を通過。久しぶりのレースということもあり序盤のハイペースが影響したか 500m 通過から失速。粘りの走りを見せるも徐々に順位を落とし 6 位でフィニッシュ。大学デビュー戦は苦しい結果となった。

2 組 4 着 飯田夏生(2) 2'33"89

最初は全体の後方を走っていたが、200m 過ぎから順調に位置を上げて 3 位で一周目を通過。中盤もそのままラスト 200m で後方 2 名とのスパート合戦に。抜きつ抜かれつで最後の直線に。最後はややピッチが落ちたか。4 位でフィニッシュ

3 組 4 着 李潔如(4) 2'46"37

序盤 200m で早くも先頭集団から離れてしまい、後方でレースを進める。終始単独走となり辛そうであった。途中、先頭集団から遅れた他大の選手を追い越す。全体の 4 位でフィニッシュ。自身が目標としていた 2 分 40 秒には及ばなかった。

男子 1500m 予選

1 組 8 着 佐藤宏夢(2) 4'14"17

集団後方で序盤レースを進める。500m 付近で前を走っていた選手が転倒するも、冷静にかわす。700m あたりから徐々に順位を上げて、1000m から前方集団に着く。全体的にペースが上がる。ラスト 150m ほどでスパートをかけ、5 着争いをするもスパートが持たず。順位を落とし組 8 着でフィニッシュ。決勝進出とはならなかった。

2組 4着 酒井啓一郎(3) 4'09"82

6着 荒田啓輔(2) 4'13"58

二人で先頭集団に着きレースを進める。最初の400mは65秒での通過。そのままのペースで1000mまで行く。1000m付近で荒田が集団から離れる。酒井は、先頭集団が5人で固まったため、落ち着いた状態でレースを進め4位でフィニッシュ。ラスト単独走となった荒田は全体の6着でゴールし、プラスで決勝進出した。

男子 1500m 決勝

6着 酒井啓一郎(3) 4'11"41

7着 荒田啓輔(2) 4'12"60

二人ともスタートがやや遅れたか。集団後方からのスタート。他大の先頭5人はハイペースだったため、二人は後方でレースを進めた。二人でじりじりと順位を上げながら集団半ばに着く。途中酒井が6位に浮上すると、それから離れないようにと荒田も7位に浮上。酒井が荒田を牽引する形でラスト1周。酒井は前方集団に追いつこうとするも順位は変わらず、6位でフィニッシュ。荒田は大変辛そうであったが、酒井に着いていき何とか持ちこたえた。7位でフィニッシュ。5点を獲得した。

女子 1500m 決勝

1組 11着 岸田昌穂(2) 6'00"85

正選手として初めての試合となった。スタート直後は集団後方についていったものの300m付近から離れていき単独走となり、400mを86'で通過。その後は最後尾でのレースとなり、後半も徐々にペースが落ちてしまいそのままゴールした。

2組 7着 飯田夏生(2) 5'13"28

9着 須田桜(2) 5'23"92

飯田も須田もスタート直後から積極的に集団についていく。須田は飯田のやや後方からスタート。400mを76'で通過。飯田はその後ペースが落ち途中単独走となるものの、後半はペースを維持しラスト200か

らはあげていきゴールした。須田は800m以降徐々に飯田らから離れ、後半は青森大の選手と2人で競う形となったが、ラストに勝ちきれずにゴールとなった。

男子 5000m 決勝

2着 田中直樹(M2) 15'14"81

5着 高橋佳希(M1) 15'26"59

6着 笠間淳平(2) 15'26"63

序盤から中盤にかけてスローペースで、1000mを3'06で通過しあまりペース変動がないままレースは進む。東北大の選手は3人とも先頭の大きな集団から離れず、全員入賞を狙える位置につく。3000mから4000mにかけて徐々にペースが上がり、大きな集団がばらけ始め縦長となる。田中、高橋、笠間ともに先頭から離れずラストスパートの機をうかがう。4000m過ぎで田中がスパートをかけ、一時は先頭を走るもののラスト一周で福祉大選手にかわされ2着でゴール。高橋、笠間もラストで粘りを見せそれぞれ5着、6着でレースを終えた。

女子 5000m 決勝

12着 梶山あずさ(5) 19'05"50

17着 卜部仁美(4) 21'06"99

18着 阿部春花(2) 21'34"62

スタートから入りの1000m、梶山は第2集団の真ん中に、卜部、阿部は集団から離れ単独となってしまふ。梶山は2000m通過あたりから集団に離されペースを落とし、11番手で単独になるも、その後後ろから来た12番手に抜かれ12番手となり、しばらく11番手の後ろにつく。抜きつ抜かれつを繰り返すが、残り3週の時点で離されてしまふ、ペースを保ったまま単独でゴール。卜部、阿部はともに中盤でペースが落ちてしまふ。卜部は痛む足をかばい上げきれずにフィニッシュ。阿部は体勢が崩れてしまふ、苦しみながらのゴールとなった。

男子 10000m 決勝

2着 本間涼介(4) 32'02"34

4 着 高橋佳希(M1) 32'21"26

13 着 笠間淳平(2) 33'56"08

序盤はスローペースであったが、本間が集団から一人抜け出しそこへ笠間もついていく。高橋は第二集団を先導する。先頭は1000mを3'10、そして高橋は3'17で通過。そのまま2000mも通過したが、3000m付近で先頭と第二集団が合体し大きな集団となってレースを進める。5000m手前で笠間が苦しそうな表情になり、先頭集団から離れてしまい単独走となる。8000mまで先頭は8人の集団であったが、ここでペースアップし本間・高橋を含む5人が前へ出る。9000mで本間と福島大選手の二人がさらにスピードを上げ、高橋はそこへついて行けず3・4番手争いに。ラスト一周で本間が優勝をめぐりデットヒートを繰り返すものの一歩及ばず2着でフィニッシュ。高橋も競り負け惜しくも4着でゴールし表彰台を逃した。笠間は後半何度も苦しい表情を見せたが、何とか13着で走り切った。本間は三年連続全カレ出場を逃す、悔しい結果となった。

男子 110mH 予選

1 組 2 着 本間大輔(M2) 15"46(-1.2)

1台目までの歩数を今年から7歩に縮めた影響で、以前と比べて1台目の入りがスローになったように見える。しかし、7台目までは1位であった。後半の走りは各上の選手と比べると差は歴然で、前半のリズムを維持できていないことが分かる。レース自体に関して、速い選手が2人棄権したこともあり、危なげなく予選は通過した。

男子 110mH 決勝

7 着 本間大輔(M2) 16"04(-4.8)

向かい風が強かったため、7歩で1台目に入るのがきつかったように見える。なんとか7歩で行けたが、そこからテンポアップできず、他の選手と差が開く。また、予選と比べて、ハードルに足をぶつけることが

多かった。ハードルに足をぶつけて減速したところに向かい風に煽られてさらに減速するという悪循環で、タイムはよくなかった。他の選手より予選からのタイムの落ち度がかかなり大きいので、向かい風のみが原因とは考えづらい。まだまだ技術の改善が必要というところだろうか。

男子 400mH 予選

1 組 5 着 佐藤弘隆(4) 58"19

前半からテンポ良くハードル間を走り上位についていくが、200mを過ぎたあたりで失速し足が合わずそのままずると順位を落としてしまった。後半の減速が大きく、前半突っ込んだにも関わらずタイムは58秒台と奮わなかった。

2 組 4 着 小幡卓哉(4) 58"46

スタートから1台目までの加速は良く、前半はスピードに乗りトップ争いをしていた。7台目まで15歩で走っていたが8台目に16歩で逆脚踏切となりやや遅れを取った。8台目から9台目までの間で18歩となり大幅に失速した。そのまま10台目までの間も18歩となり、逆脚踏切にもなり完全に失速した。シーズン初レースということを考えても後半のレース戦略には準備不足が感じられた。

5 組 5 着 千葉優人(6) 59"92

最後の東北インカレとなる千葉。最後らしい走りを見せたいところ。一番外のレーンからスタート。積極的に飛ばし、いい位置につける。しかし後半足が合わず、目に見えてスピードが落ち、300m地点ですでにかなり苦しい走り。最後は足が止まりかけたがなんとかゴール。不本意な結果となった。

男子 3000mSC 決勝

2 着 田中直樹(M2) 9'25"20

5 着 田中翔悟(4) 9'54"88

6 着 高橋仙一(4) 9'55"86

スタート直後は3人共に集団の前方でレースを進める。二周目で田中直が先頭へ出て積極的にレースを展開。ここで集団が少しずつばらけ始め、高橋、田中翔はそれぞれ5番手8番手へ。1000mは3'09で通過し、その後福祉大選手がトップに躍り出るが田中直はそれにぴったりついていき、先頭集団はこの2名に絞られる。高橋は5番手、田中翔は7番手で入賞を狙える位置。先頭は2000mを6'18で通過し、ここからペースを上げる。ラスト一周手前で福祉大選手がさらにスピードを上げるが田中直はそれに対応できず、引き離されてしまいそのまま2着でゴール。田中翔、高橋は互いに競り合い5着6着でフィニッシュ。全員入賞はできたものの、田中直は昨年3000mSCで優勝したこともあり悔しい結果となった。

女子 3000mSC 決勝

4着 宮間志帆(M1) 11'40"68

序盤は集団の後ろにつき、水濠で離されるもその後差を詰める。徐々にペースが落ち前との差が広がり、先頭集団からは離れる。1000mは3'33"で通過するが、その後前の選手と離れたこともありペースが落ちてしまった。単独で走りラスト1周からスパートをかけフィニッシュ。障害の練習不足が目立つ結果となったため、今後の試合に期待したい。

男子 10000mW 決勝

6着 及川一真(2) 47'56"53

9着 森渉(3) 51'59"12

11着 根津勇介(3) 60'27"84

及川は、5人で構成された3位集団の後方につき、リズムよく歩けている。森は、自己ベストに迫るペースをほぼイーブンで歩けている。根津は高校以来の競歩ということで、多少肩に力が入っている。5000m過ぎで3位集団がばらけ、及川は単独5位となる。5000mWの大学ベストよりも早いペ

ースで通過できたが、その後2個警告がついてしまった。丁寧に歩き続け47分56秒6位でゴール。森は警告1つもなくラスト1周に入り、50mは離れていた前の選手を猛追。ゴール手前で抜かし51分59秒9位でゴール。根津は途中からかなり苦しそうで、警告も2つついてしまった。なんとか気合いで歩き切り、60分27秒11位でゴール。

女子 10000mW 決勝

4着 白井花(3) 57'27"24 部記録!

最初は、二位集団5位の位置をキープ。フォームが安定していて、持ち味のピッチの速さを活かしていたが、オーバーペース気味だった。集団が失速し、3000m通過付近で前に出た。先頭集団から失速した学院大を抜かし3位まで浮上。5000mまでは先頭と同じペースだった。6000m辺りから失速。7000mで岩手大学の二番手に抜かされ4位に。そのままゴール。なお警告は0枚だった。レース展開は前半突っ込みすぎてあまり良くなかったが、記録は1分半以上の自己ベストの更新し、部記録を樹立した。冬季の練習が実を結んだ結果となった。

男子 4×100mR 予選

3着 42"57

竹原(M1)-宮崎(4)-白鳥(2)-藤井(3)

一走の竹原、まずまずの反応でスタートを切った。徐々に加速していき、3位付近で宮崎にバトンを繋いだ。宮崎は持ち前の加速力で他大との距離を縮め、三走の白鳥にバトンパスをするもかなり詰まってしまった。カーブで徐々に加速するも、本来の伸びのある走りができず4位で藤井にバトンを渡した。しかし藤井が後半に伸びのある走りを見せ、組3位で決勝進出を果たした。

男子 4×100mR 決勝

7着 42"37

竹原(M1)-宮崎(4)-白鳥(2)-畑岡(6)

一走の竹原、スタートの反応は良かった。中間疾走もスピードの乗れた走りができ、

バトンパスも成功した。二走の宮崎、バトンを受け取るとスムーズにトップスピードに乗ることができた。順位を落とすことなくバトンパス。三走の白鳥だが、緊張のせいか体が硬くなってしまい、本来のなめらかな伸びのある走りができなかった。バトンパスでアンカーに渡すことができず、ここで大きなロスが生まれた。四走の畑岡は苦しい展開の中、100mを走り抜いたが、焦りもあったか伸びがいまいちなかったように思えた。結果としては7位で終わった。

女子 4×100mR 決勝

5 着 50"23 部記録!

中村(2)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(2)

一走中村はスタートで少し浮いてしまったが、無難な走りで二走佐貫へ繋ぐ。まだリレーに不慣れなようで、バトンパスを最大に生かすことは出来なかったが、その後はぐいぐいと加速し他チームとの差を少し詰めて三走吉村へ。上体のブレは見られたがカーブをうまく回りスピード感のあるバトンパスで四走佐々木へ3チーム混戦状態で渡す。1チームは振り切るものの、外側隣レーンのチームには競り負ける。レース展開もよく、50秒23の部記録更新で5位。バトンの精度を上げ49秒台に期待したい。

男子 4×400mR 予選

3 着 3'23"78

阿部(4)-畑岡(6)-千葉(6)-水戸部(3)

一走の阿部、前半の200mはやや抑えたペースで走る。ラスト150m付近から徐々にギアチェンジをしていき、他大学がペースを落とすところで落とさずに3位でバトンパス。二走の畑岡は前半から勢い良く飛び出していく。終始学院大を追う形となり抜くことができなかったが、差を少し詰めた状態でバトンパス。三走の千葉だが、30分ほど前に行われた400mHの疲れが露骨に見えたレースで、彼本来の伸びのある走りできていなかった。順位を1つ落とし

てバトンパス。四走の水戸部は福祉大と学院大を追う形となり、苦しい展開でのレースであった。何とか巻き返しを図ろうと前半から攻めのレースを展開し、ラスト100m付近で確実に学院大を捉えた。そのまま学院大を追い抜き、苦しい中ではあったが、何とか組3位で決勝進出を果たした。

男子 4×400mR 決勝

7 着 3'22"73

阿部(4)-畑岡(6)-千葉(6)-水戸部(3)

一走は阿部。前半の200mはまざまざのスピードで走ったが、彼本来のスピード感が見られなかったせいか、他大との距離がやや開いてしまった。ラスト200mで大きな減速はなかったものの、前半の差があったせいか5位付近でバトンパス。二走は畑岡。持ち味である前半から飛ばす、勢いのある走りを見せ、200m付近では混戦となった。混戦が続いたままラスト100mへ。少し疲れが見え始め、ストライドが小さくなってしまったが、予選よりも好タイムの49秒台で走り抜いて6位でバトンパス。三走は千葉。前の宮教大を追い、福祉大と学院大に追われる形でスタートを切った。前半150mまでリラックスした走りを見せた。しかし、200m付近を越えたところから徐々に体が動かなくなり、後ろの二大学に詰められる。ラスト100mは抜かれまいと意地を見せつけ、6位を守りきりバトンパス。四走の水戸部は彼らしい安定感のある走りで前半の200mを越える。後半のカーブ150m付近で福祉大との争いになるが、ここで順位を落としてしまう。ラスト100mで巻き返しを図るも差を縮めることができず、結果として7位でゴールした。

男子走高跳 決勝

1 位 田中祥平(3) 2m03

安全圏に185cmからスタートした。185cmは楽々とクリアしたがいつもの高さが出る跳躍では無かった。また、いつもよ

り跳躍の動きは堅かった。191cm では助走が安定せず一回落としてしまうが、2 本目でしっかり動きを修正しクリアした。194,197cm はともに一発クリアした。2m に上がり風が強くなり助走がうまくいかずに高さが出ず 2 本失敗。3 本目ではギリギリではあったがなんとか修正しクリアすることが出来た。203cm では跳んだことのない高さだったが 1 回目から怖じけること無く挑戦した。1 回目はクリアならず。2 本目はしっかり踏切などもはまり 203cm をクリアした。206cm に上がったがここまでで、11 本跳んであり疲れが見え 206cm はクリアすることが出来なかった。

全体として助走が安定しないなどの改善点が見られたので修正したい。

6 位 山下一也(2) 1m97

体の動きは悪くなかった。しかし、勝負がかかった試合であったために緊張したのか、踏切があまり上手くはまっていなかった。上半身は上がっていたのだが、踏切がうまく決まらず下半身があまり上がって来なかった。それも、バーに引っ掛けた跳躍はどれも同じような引っ掛け方ばかりであった。失敗試技数が多くなってしまったが、その状況でも上手く修正し、なんとか 197cm まで跳ぶことができた。結果として、6 位入賞を果たすことができた。

8 位 藤井佳祐(3) 1m88

高跳の前日に出た 100m で疲労が残っているのかいつものような速度で助走ができず足が合わなかった。安全に 175cm からはじめ 175cm は楽々とクリアしたが流れていた。185cm にあげ、一発でクリアした。188cm に上がり 1 回目はうまくはまらず失敗。2 本目では流れながらもクリアしたが膝が痛そうであった。191cm にあがり 2 本は動きが良くなり失敗。3 本目悪くはない跳躍ではあったが流れてしまい失敗。

今回は全体的にいつもより流れる跳躍になっていた。膝が痛くなるのを内心で怖がっているのかしっかり踏み切れてなかった。また、100m の疲労が残っていたのも原因だと思われる。しっかり鍛錬していきたい。

男子棒高跳 決勝

1 位 高橋拓実(4) 4m90

4m60cm から跳び始めた高橋は 1 本目、ポールがたち、流れすぎて失敗。2 本目、ポールはたち気味だったが余裕のクリア。ここからは余裕のある跳躍で、4m70cm、4m80cm、自己ベストタイ記録である 4m90cm まで一発でクリア。他を寄せつけない圧巻の安定力であった。5m こそクリアとはならなかったが優勝を決めた。これまで東北インカレでは 3 年連続 2 位という結果だったが、主将として挑んだ今年、見事に優勝を果たし東北インカレ初日から東北大に勢いをつけた。

4 位 高橋昇之(2) 4m70

高橋は 4m40 からの挑戦。1 本目こそ高さがでなかったものの、2 本目では修正し記録を残す。続く 4m50、4m60 の試技は余裕があったとは言えないが見事 1 本目でクリア。この時点で 4 位以内が確定。4m70 から一つ上のランクのポールに持ち替え挑むが、1 本目は体を上げられず、2 本目は高さがです失敗。追い詰められた高橋だが、最後の 3 本目でバーにかすりながらもクリア。4m80 は 3 本とも高さが足りず競技終了。3 位と同記録ながら試技数差で惜しくも表彰台をのがした。シーズン初めから不調が続いていた高橋だが、ここ一番でシーズンベストを 30 cm 上げる勝負強さを見せつけた。来年は各大学の有力選手が卒業するため優勝を期待したい。

男子走幅跳 決勝

2 位 岡部大輝(M2) 7m32 (+0.5)

1 本目、助走が合わなかった。2 本目、助走の後半が間延びぎみになってしまったが

踏切がしっかりハマっていた。3本目、助走、踏切までは良かったが空中でバランスを崩してしまい、飛距離がでなかった。4本目、助走が乗り切らなかった。5本目、全体の流れはとても良かったがファールした。6本目、踏切が遠かった。

14位 大塚祐貴(3) 6m49 (+1.6)

3回の跳躍すべて助走に迷いがあった。しっかりと身体は動いていたものの、踏切動作につなげることができなかった。これからは、技術練習をもっといねいに行い、記録の向上につなげたい。

女子走幅跳 決勝

16位 門脇郁(1) 4m40(+2.0)

1本目は4m40。踏切前のリズムアップができず間延びしてしまっている。2, 3本目は踏切が遠い上に潰れてしまい、記録の更新にはつながらなかった。3本の跳躍いずれにおいても踏切の際に足の力に負けて顎が引けていない。走り込みや経験の不足が伺える。北大戦以降の大会に向け走力の強化と技能の向上が課題となるだろう。

渡邊朝美(4) NM

3本ともスピードを上げることが出来なかった上、足も合わず記録なしでおわる。跳躍選手としてやってはならないミスであった。次回の奮起に期待したい。

男子三段跳 決勝

3位 須藤海(4) 14m87 (+2.7)

1本目助走が乗らず、潰れた。2本目踏み切り前のギアチェンジがハマり、ホップステップジャンプと余裕のある跳躍を見せ、部記録まであと1センチと迫る記録(14m77)となった。3本目助走が大きく乗っており、跳躍は多少潰れたが強引に持って行き今大会ベスト記録(14m87、追い風参考)を出した。4本目ステップまで会心の跳躍を見せたが、ジャンプで潰れてしまった。5.6本目疲労が見えており、跳躍に耐え切れず潰れしまった。

全体的に安定した助走で跳躍も以前とは一回り大きなものになった。部記録、15メートルも目の前に見えてくるポテンシャルを見せたが、勝負所での1本が出せず、全カレの切符は逃した。

13位 中村龍士(1) 13m03(+1.3)

一本目は助走があっっていなかった。前半のリズムは良かったが、後半の踏切5歩前くらいから踏切に合わせて助走が小刻みになっていった。二本目は、一本目から助走を1m伸ばして修正し、スピードもやや抑えての跳躍となった。結果はファールだったが、今大会では一番まともな跳躍だった。スピードを抑えることで勢いはなくなったが、ホップ、ステップ、ジャンプともに潰れることなく捌くことができていた。須藤にスピードを抑えすぎとの指摘を受け、三本目は助走を50cm下げ、助走スピードを上げて挑んだ。三本目で体が動いていたこともあり、スピードは出しつつも余裕のあるリズムカルな助走ができていた。踏切についても助走のリズムのまま飛び出せていたので、ホップでかなりの距離を跳ぶことができていた。その一方、ステップジャンプは筋力不足の粗が出てしまい、ステップで潰れてジャンプに勢いがなくなるという初心者のような形になってしまった。これは時間をかけて筋力を戻すことによって改善されるだろう。今大会の記録は少しショックだったようだが、助走や踏切の入り方などを思い出せたようで、今後走力と筋力を戻していくことで記録を伸ばせるだろう。

佐藤文哉(4) NM

佐藤は自己ベストの更新を目標に試合に挑んだ。一本目の試技は走りに緊張が見られ、動きがよくなかった。数センチ足が出てF。二本目は、助走が改善され、ジャンプも決まったが僅かに足が出てF。三本目はスムーズな助走からホップし、足も出なかったが、ステップでバランスを崩して跳躍

できずに F。技術的な問題によりまだうまく跳べていないようであるが、今後の対抗戦では得点に期待したい。

女子三段跳 決勝

6位 渡邊朝美(4) 10m89 (+0.7)

1本目はステップで潰れるも、2本目以降は助走ラストでの合わせ方をだんだん習得し、少しずつ記録を伸ばした。ベスト 8に残った後も記録をあげられたことは収穫であった。10m89の6位で終了。調子自体は悪くはなかったので悔しい結果であった。まずは怪我を治して記録更新に期待したい。

男子砲丸投 決勝

4位 楠哲也(2) 12m24

1、4、6投目は砲丸が上に飛んでいった。2投目は1投目に修正を加えた形で投げた。5投目は腰が右に向いたまま投げたのでそのまま右へファール。試合全体を通してフォームがぎこちなく、しっかり前へ突き出せていなかった。ただ、2週間前には7m位しか投げられなかったこともあったことを考えると、それなりに調整できたのではと思われる。このセメスターは砲丸の技術を磨いていきたいと語っているので、この先どこまで行くか期待が持てる。

7位 大塚一途(2) 11m30

天候に恵まれ、体も十分に動くという状態での競技開始となった。しかし1投目は緊張から動きの精度が低く、思い切りの見られない投擲となってしまう、9m台の投げになってしまっていた。しかし2投目で視線を保ち、上手く体が開かない投げが出来たため記録を伸ばし11m11の自己ベストをマークする。3、4投目では腰の上に体を置くイメージを馴染ませ、5投目で11m30と再度自己ベストを更新。6投目は前に突っ込みすぎてファールとなったため、これが最終的記録となった。精度の面を今後の課題としつつ、結果としても実りのある大会であった。

11位 佐藤雄也(4) 10m30

1投目は安定性のあるグライドで投擲するも、緊張のためかやや動きがぎこちなく10mを越えない投げになってしまっていた。2投目以降では速めのテンポのグライドを行ったものの、2投目では突き出しの際に砲丸が手元でずれてしっかり押せず記録は10m30。3投目はグライド完了時から突き出すまでに間が出来てしまいグライドによる加速を活かせず、記録を伸ばせなかった。自身の最大限の速度を引き出せる新しいテンポのグライドで臨んだが、3拍のテンポ中に腰の位置を落とせていなかったため、下半身の力をつかうフォームへ繋がられなかったとのことである。今後の試合では、2つのテンポを3回あるいは6回の試技でどのように使い分けるか、自身の精神状態や体調、順位などに応じて最善の選択をできるように分析する必要があるだろう。

女子砲丸投 決勝

9位 吉田歩(4) 7m67

一投目、二投目とも迷いが出て、グライドから投げまでスムーズに進めることができなかった。三投目では無理やり砲丸を押し込み、他選手の記録を追い越すことができたが、直後に逆転され9等。グライドは徐々に上達しているが、左腕の使い方が乱れたりすることが多いので、今後、動作の安定が求められる。

男子円盤投 決勝

4位 楠哲也(2) 39m67

1.2投とも円盤が手から離れてしまいファール。3投目は決勝に残るため置きに入った。5投目も1.2と同様にファール。6投目はリリースがうまくいかなかった。当日体が重く感じていたのもあったが、円盤が手から右に外れていく傾向が如実に出た試合だった。4月下旬からその傾向が表れていたが、試合でこれほど右に飛んで行ったのは今回が初めてだった。

9位 工藤航平(4) 27m92

1投目でPBとなる27m92を記録するも、2、3投目でリリースポイントが手前に来てしまう以前からの課題を修正できずにファールとなり、9位で入賞とはならなかった。投擲練習を積めないなかでの出場であったが、今後は投げ込みの量を増やし更なる記録の更新を目指して欲しい。

10位 佐藤雄也(4) 26m42

全試技を通じてターンでの移動で前方へ進み過ぎていた。記録を出そうとする焦りの為、そうってしまったのではないかとされる。2、3投目では止まる気があるのかというくらい脚がサークルから前に出てファールになっていた。今回の反省を踏まえて、右脚の設置位置を修正してパワーポジションを正確につくる練習、そしてパワーポジションから下半身をつかって円盤に角度をつける練習が課題となるであろう。

女子円盤投 決勝

7位 青木千景(4) 28m33

本大会では全体を通して力が発揮されないものとなった。1投目のファールからはじまり、2、3投目は記録を伸ばすもののターンが浮いてしまい振り切りのみの投げとなってしまった。ファールを恐れていたという。4投目からもターンの修正を試みるもファール、ショートに終わってしまった。投擲の安定感のなさが浮き彫りになる試合であった。北大戦までに点数に貢献できるよう、東北インカレの経験を活かし練習に励んでほしい。

男子ハンマー投 決勝

7位 野尻英史(2) 38m26

10人エントリーの中で2人棄権という、入賞と6投が保障された状況だったため、精神的にかなり余裕がある中で投げることができたという。1投目は2回転でわずかであるがベストを更新することができて、これ以降記録を残すことに専念することが

できた。有効試技毎に記録は伸び、6投目は何とか踏ん張った3回転が有効試技となり、38m26という結果で7位入賞を果たした。調整期間にほとんど投擲練習ができない中、ベストを大幅に更新することができた内容にはある程度満足していたと本人は語っている。しかし、フォームの拙さは他の選手と比べかなり見て取れた。来年以降も彼らと渡り合うためにはフォームを完成させることが不可欠だろう。結果と課題が見えた、実りある大会だったのではないだろうか。

女子ハンマー投 決勝

6位 吉田歩(4) 14m32

今年初めて挑戦するハンマー投げ。多くの部員に見守られ、落ち着いた様子で投げることができていた。投擲角度があまりつけられず、緩急がない投擲になっていた。今後の技術向上に期待したい。

男子やり投 決勝

14位 工藤航平(4) 47m23

背部の故障により棄権の可能性もあったが、様子を見ながら出場した。助走の速度を落とし、ブロックも決められない投げではあったが、春季と比べて体の状態は良くなってきていると思われる。今後は怪我を治し、忘れてしまった投げの感覚を思い出してほしい。

女子やり投 決勝

9位 吉田歩(4) 22m70

初めての大舞台でのやり投出場。周りに圧倒され、一投目は力が入らない投擲となった。二投目、三投目は助走を合わせられずファール。経験と練習を積み、さらなる発展を期待したい。

男子十種競技

10位 佐原拓郎(M2) 4711点

・100m: スタートしてすぐに上体を起こしてしまい十分な加速を得られなかった。また、トップスピードが非常に遅かった。原因はハムストリングの柔軟性の低下、神経

系、足の設置ポイントが前過ぎて足の回転が遅く、地面を強く押す感覚が得られなかったと考えられる。また、50m程でエネルギー切れを感じたので走り込み不足である。

・幅跳び：スピードは出ていたが助走が合わず、全てファールの危機であった。ラスト5歩の感覚を忘れてしまった。改善策は走り込んで安定したピッチとストライドを確立する事である。

・砲丸：真っ直ぐに押し出せず力の伝わらない投擲だった。グライドの能力も劣化しており、立ち投げの記録より少し伸びた程度である。単純に投げ込みが足りない。

・高跳び：今回の競技で一番良かった。練習は全くせず助走も合わせていなかったが、目標記録の160に対し165を跳ぶことができた。170の跳躍は踏切の瞬間かなりの浮遊感があり間違いなく飛べたと思ったが、抜き足を忘れ、踵をバーにひっかけた。跳問題点は、重心は高く上がるが踏切位置やクリアランスが下手なため数十センチ記録を損している点である。

・400m：300mまでは良く走れていたが、途中ハムストリングスに急激な負荷がかかり動かなくなってしまった。単純に持久力不足と言う事もあるが、肉離れの前兆の様にも感じて残りは足を極力使わずに上半身で体をゴールまで運んだ。その後ダウンをしっかりとったところ異常はなかった。

・110mh：試合2週間前に練習したところ、低く跳べ、インターバルも狭く感じたので16秒前半は出せると感じた。しかしながら、試合当日のアップで足が合わず、第一ハードルの踏切が近すぎ、何度やっても上に跳んでしまうと言う事態に陥った。そのまま試合に出て、第一ハードルで高く跳んでしまい初速を失い、バウンディングの様になんとか三步で跳びきったが散々な結果であった。

・円盤投げ：ターンの後にパワーポジションが作れず、手からスルスルと抜けていく様な投擲だった。また、右に逃げていく様な投げだったので、体の捻りとキックが出来ておらず体幹回転が遅かった。

・棒高：記録が残せてよかった。それ以降は、疲労の為か体が動かず、空中動作が出来なかった。

・やり投げ：一投目に記録を残すためゆっくりと助走して軽く投げ40m程飛んだが、バランスを崩して白線にわずかに乗ってしまった。踏み越えはしなかったが、ファールを取られた。2投目に記録を残し、3投目に本気で投げようとしたが失敗投擲におわった。

・1500m：2位集団に着けていたがスロースピードでの周回となった。2週目になってもスピードが上がらなかったため途中から前に入る事にした。余力があったのでタイムマネジメントを上手くすれば5秒ほどタイムが上がっていたと思う。

・総括：試合前日は久しぶりの混成の試合の緊張で一睡もできず、体長不良で体がフラフラしていた。二日目は疲労で眠れた。一通り競技をこなせる技量と体力、試合に向けたピーキングが重要だと感じた。

11位 鈴木輝彦(1) 3175点

約2年ぶりの大会ということもあり緊張していたせいか最初の種目100mのスタートを失敗。その後徐々に調子を取り戻し高跳びは自己ベストを更新。400mは思いきったスタートが出来なかった。2日目は初めての種目やハードル等技術を要する種目が多く練習不足であることが感じられた。投擲種目に関しては筋力の低下を痛感する結果となった。ともあれ約2年ぶりの大会で初めての10種競技をやり抜いたことは今大会において有意義であったと言える。

◎自己ベスト更新者一覧(2/24～5/22)

- ・男子 200m
白鳥海知(2) 23"11(+1.0)(仙台大記録会)
津嶋優希(3) 23"09(+1.8)(仙台大記録会)
- ・男子 800m
川口航汰(2) 1'57"03(東北インカレ)
- ・男子 1500m
酒井啓一郎(3) 4'09"82(東北インカレ)
南雲信之介(5) 4'12"13(全日本薬学)
森渉(3) 4'25"73(仙台大記録会)
- ・男子 5000m
酒井啓一郎(3) 15'46"39(東北インカレ)
- ・女子 5000m
阿部春花(2) 20'33"67(学連春季)
- ・男子 10000m
酒井啓一郎(3) 32'36"78(学連春季)
- ・男子 110mH
工藤翼(3) 14"96(-0.6)(学連春季)
- ・男子 3000mSC
田中翔悟(4) 9'54"88(東北インカレ)
- ・男子 5000mW
森渉(3) 25'59"13(県春季)
- ・男子 10000mW
森渉(3) 51'34"16
(森山スプリングウォーク)
- ・女子 10000mW
白井花(2) 57'27"24(東北インカレ)
- ・女子 4×100mR
中村(2)-佐貫(1)-吉村(3)-佐々木(1) 50"23
(東北インカレ)
- ・男子走高跳
田中祥平(3) 2m03(東北インカレ)
- ・男子砲丸投
大塚一途(2) 11m30(東北インカレ)
- ・男子ハンマー投げ
野尻英史(2) 38m26(東北インカレ)

○今後の予定

- ・6月4日 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (角田市陸上競技場)
- ・7月2～3日 第38回北日本学生陸上競技対校選手権大会 (北海道・厚別)
- ・7月16～17日 第67回東北地区大学総合体育大会 (山形・ND ソフトスタジアム)
- ・7月30～31日 全国七大学対校陸上競技大会 (東京・大井)

○編集後記

今シーズン最初の対校戦となる東北インカレが終わりました。東北大学からは、全カレ出場者二人を含む、多数の入賞者が輩出されました。各出場者、練習の成果を発揮できたり、今後の課題を見つけられたりと、有意義な大会になったと思います。また、今回選手に選ばれず出場できなかった部員たちも、大きな大会の熱気に触れ、とても良い刺激になったのではと思います。

これから北大戦、七大战と、大事な対校戦が続きます。部員全員が一丸となって戦い抜いていきたいと思っています。

文責 副務 吾妻祐介

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp